

い。これが早淵川上流域と谷本川上流域との地域差と捉えることもできるが、さらに小さく、支谷単位で小地域を捉える必要性があるのではないかと考える。

朝光寺原遺跡については山の道を想定したが、三殿台遺跡においては海の道について考えておきたい。

三殿台遺跡は、朝光寺原遺跡の南南東約 16km に在る。現在の海岸との距離は、根岸湾岸まで 1.7km に位置し、往時の海岸線は遺跡近く存在しており、いわゆる海辺の集落であったと考えられる。

調査報告書《遺物編》が刊行されていないこともあり、大方には、朝光寺原式土器は存在していないと思われる。しかし、鈴木重信氏の整理作業や今回の資料調査でその存在が明確となり、出土土器の様相は、朝光寺原遺跡と相異していることも明らかになった。先述したように、台付甕では駿河湾岸地域の影響が認められ、高坏では三河地域の影響も認められている。また、広口甕では東京湾東岸地域の影響も認められた。このように他地域・異系統の土器が混在する状況が確認できた。

三殿台遺跡は根岸湾の最奥部中央に位置しており、近くに海の津が存在していたことも充分考えられる。広範な地域に影響が求められるその背景を考える上では、東海地方（遠江・三河）や東京湾東岸に通じる津の存在は不可欠である。金目川や相模川流域においては遠江や三河からの移住が想定されており、綾瀬市神崎遺跡においては、出土土器の 95% が西遠江系土器であることから、移住民によって営まれた集落であったとされている。しかも、土器は搬入されたものではなく、胎土分析の結果、多くが周辺河川砂鉱物・岩石組成と類似しており、地元で作られた可能性が高いという（小滝・岩田ほか 1992）。朝光寺原式土器分布圏の南西部には集団的な移住が行われていたことが想定されている。

このように、遠く隔たった他地域から多くの人の移動をさせるのは舟運を想定しなければならない。さらに海の津を中継点として河川の上流地域に向けても舟運が使われた可能性が充分考えられる。一方、広口甕では甲府盆地の影響も認められており、人・物の移動については陸路だけでなく河川舟運の可能性も視野におかなければならないだろう。

このように、三殿台遺跡は海の道の玄関であり、と同時に、ここを起点とした河川舟運や陸路の起点にもなっていたことは想像に難くない。必ずしも巨大集落とは言えないが、この地域における交易・流通経済の拠点的な集落であったことを窺うことが出来よう。

おわりに

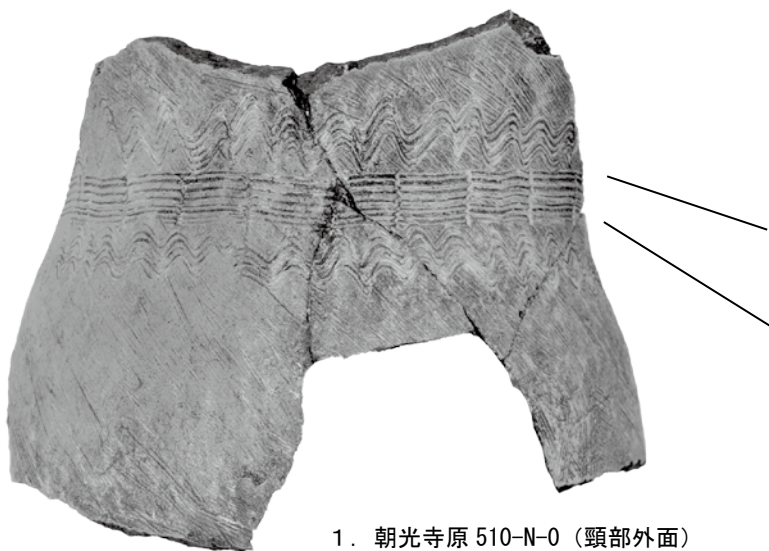
今回機会を得て、朝光寺原式土器の型式基盤を掘り起こすに至った。不十分な点が多々あるそしりは免れないが、幾許かは当該研究の参考になればと願うものである。諸兄の御叱正・御教示を賜れば幸いである。また、拙文の至らない部分については、正式報告書の際に修正されることを期待する。

〆発掘調査は報告書をもって完了する、原則が、朝光寺原遺跡にも等しく適用され、一日も早く刊行されることを切望している。集積された記録や遺物をもとにして、第一級遺跡の全体像を過不足なく明らかにしてほしいものである。

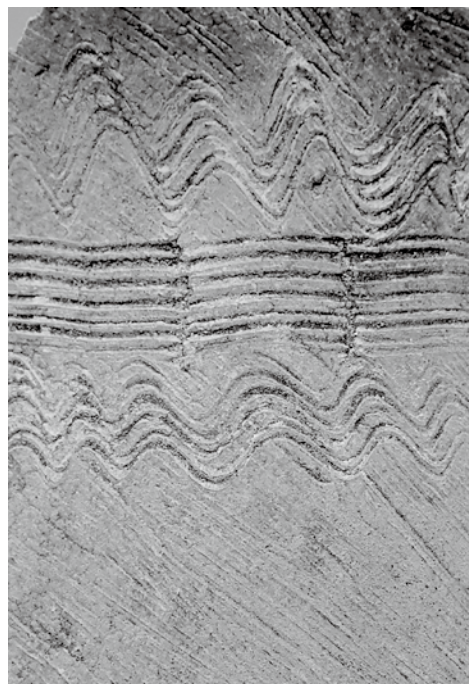
朝光寺原遺跡の意義に着目し、その成果をさらに発展させようとする考古学・地域史研究者は決して少なくない。小文がそうした渴望への一滴となり、かつ報告書作成への一里塚となれば望外の幸せである。

和島誠一先生が他界して半世紀、岡本 勇先生が長逝して四半世紀の歳月が流れた。学生時代に朝光寺原遺跡の発掘調査に係わった一人として、多少なりとも自己責任を果たすことができたと思っている。両先生の苦笑いする顔を思い浮かべつつ搁筆する。

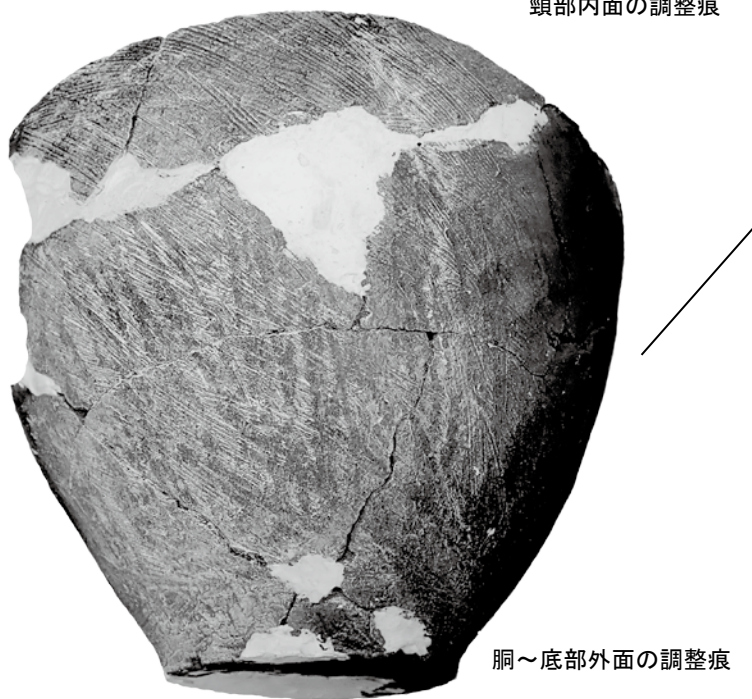
（2022 年 1 月 20 日稿了）



1. 朝光寺原 510-N-0 (頸部外面)



頸部内面の調整痕



胴～底部外面の調整痕



底部外面のハケ目調整状況

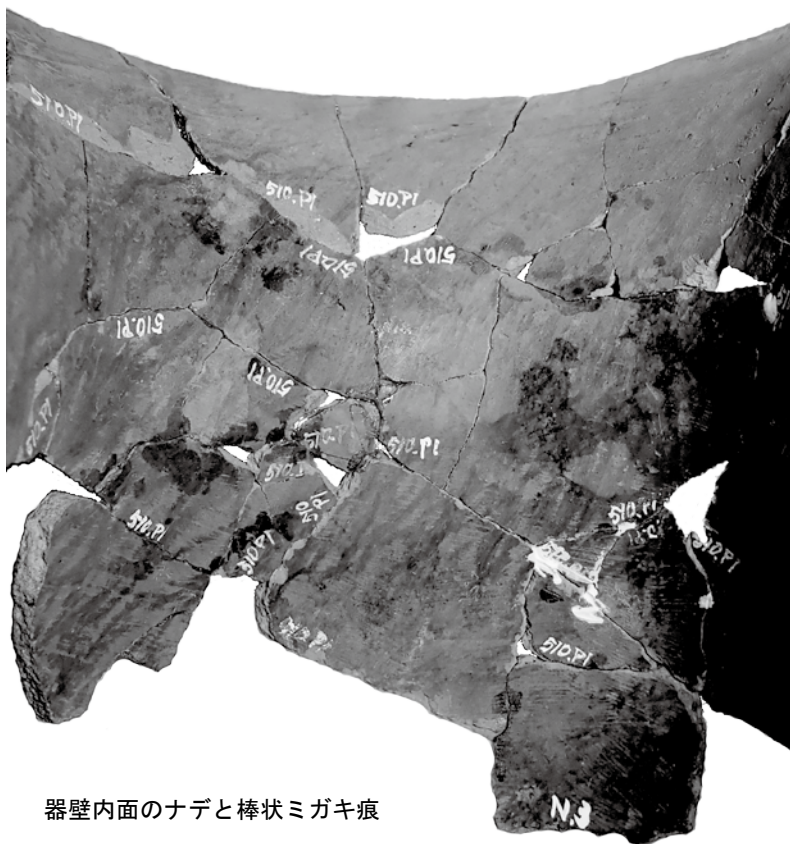
写真 1 朝光寺原遺跡 510 号住居址出土土器 1



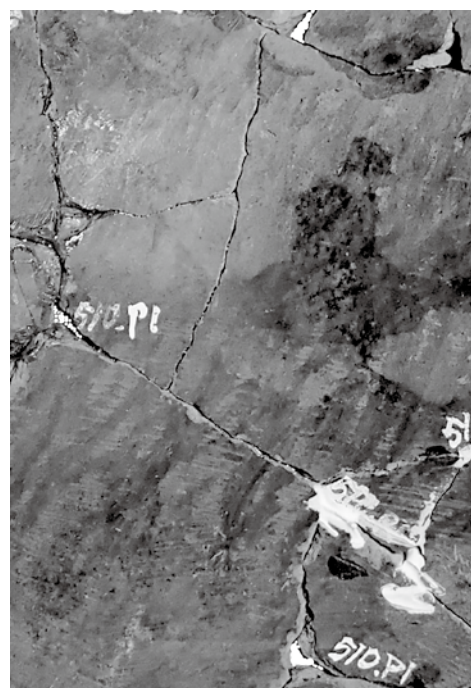
3. 朝光寺原 510-P11-N3 (口頸部外面)



ハケ目調整痕と波状文の施文状況



器壁内面のナデと棒状ミガキ痕

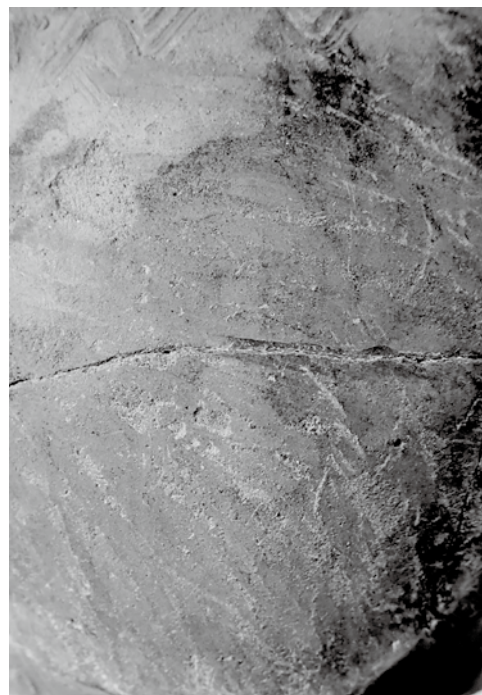


器壁内面の調整痕

写真 2 朝光寺原遺跡 510 号住居址出土土器 3



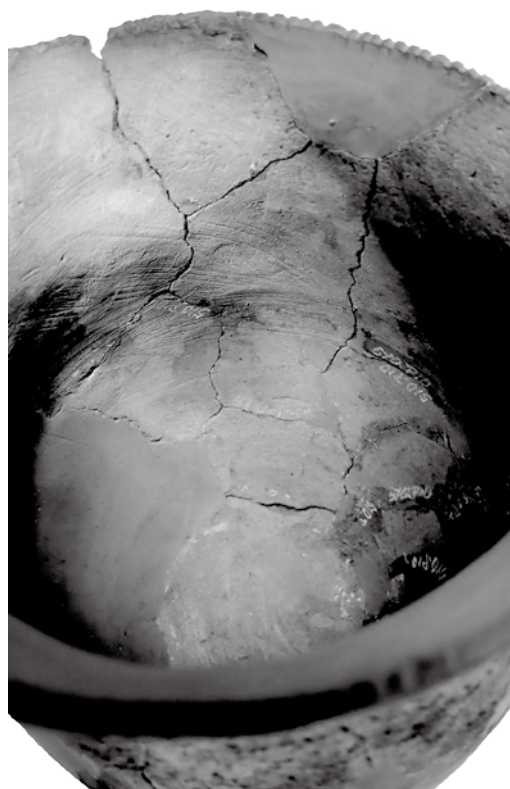
5. 朝光寺原 510-P9-N13



5. 胴部外面の器面調整痕

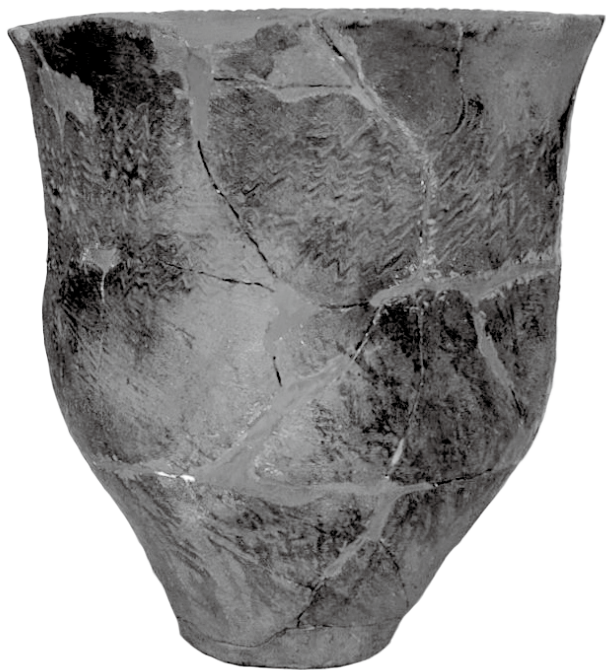


6. 朝光寺原 510-P10



6. 器壁内面の調整痕

写真3 朝光寺原遺跡 510 号住居址出土土器 5・6



10. 朝光寺原 510-A-3

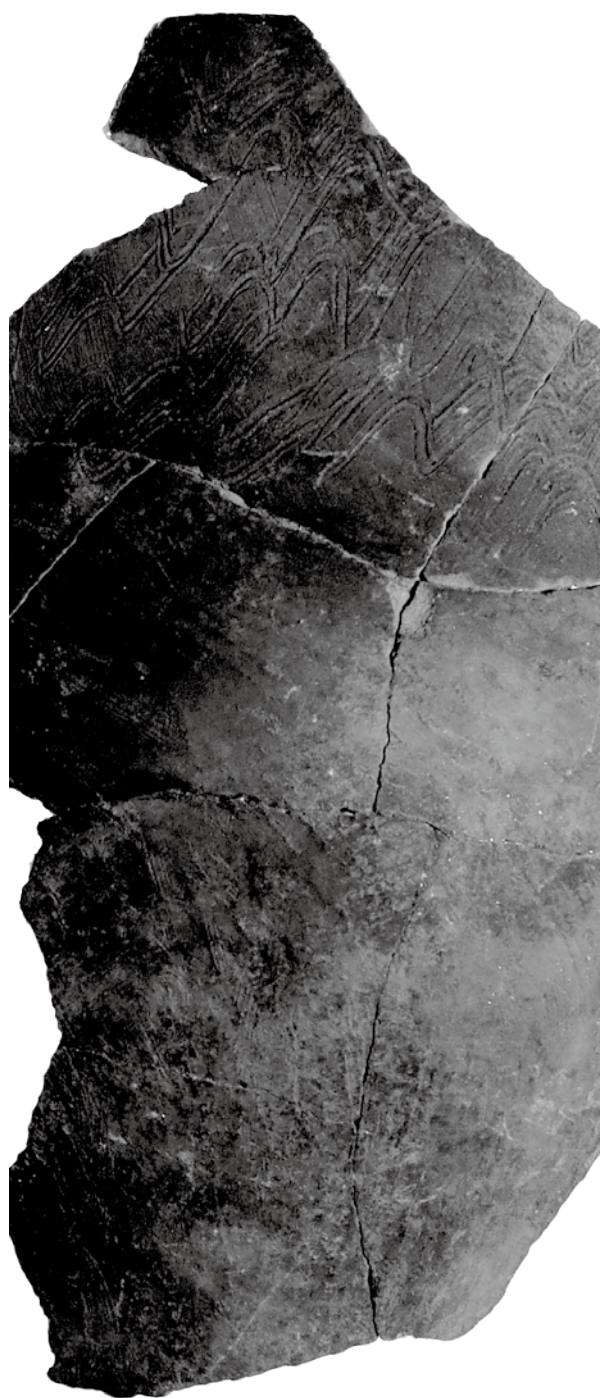


7. 朝光寺原 510-A-N4

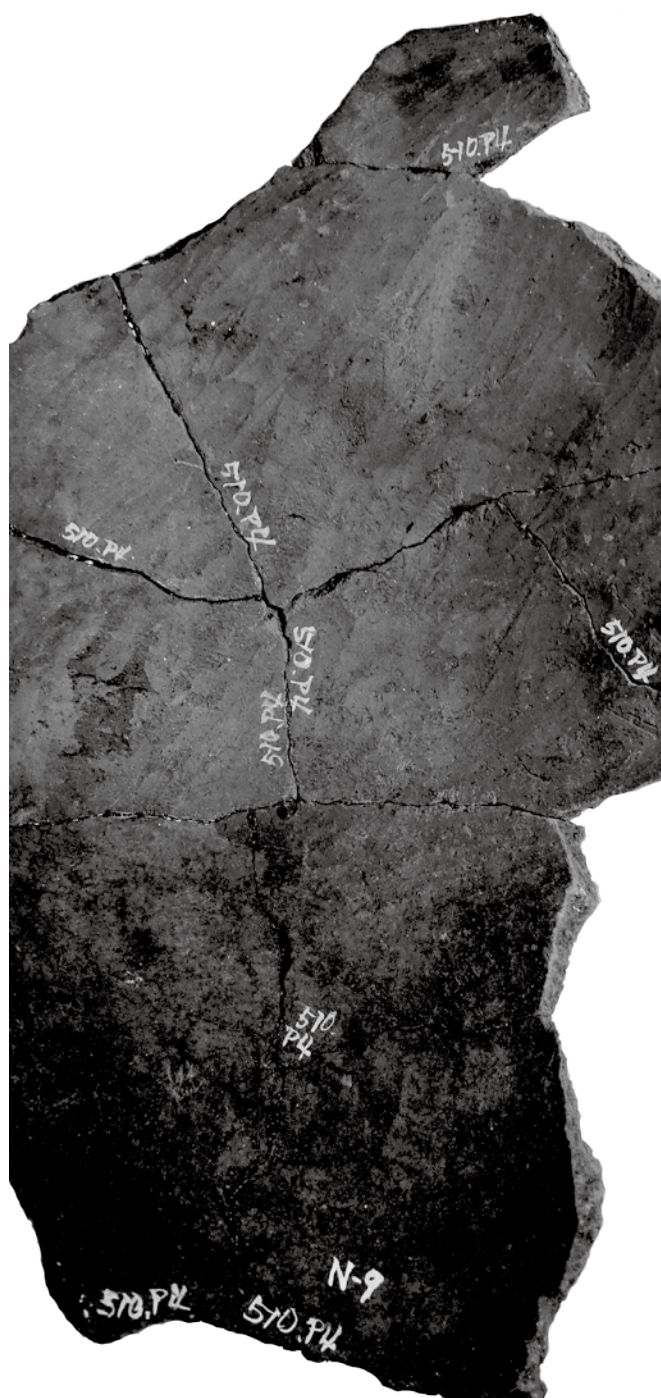


2. 朝光寺 510-P11

写真 4 朝光寺原遺跡 510 号住居址出土土器 2・7・10

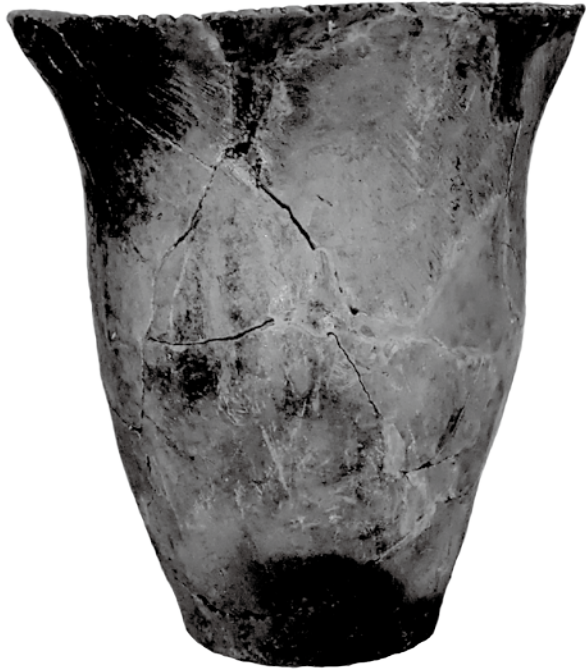


4. 朝光寺原 510-P4-N9 (外面)



4. 朝光寺原 510-P4-N9 (器壁内面の調整痕)

写真 5 朝光寺原遺跡 510 号住居址出土土器 4



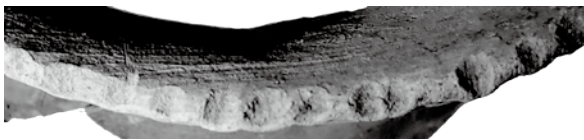
11. 朝光寺原遺跡 510-P7-N12



12. 口唇部の刻目文



12. 朝光寺原遺跡 510



9. 口唇部刻目文の施文状況



9. 朝光寺原遺跡 510

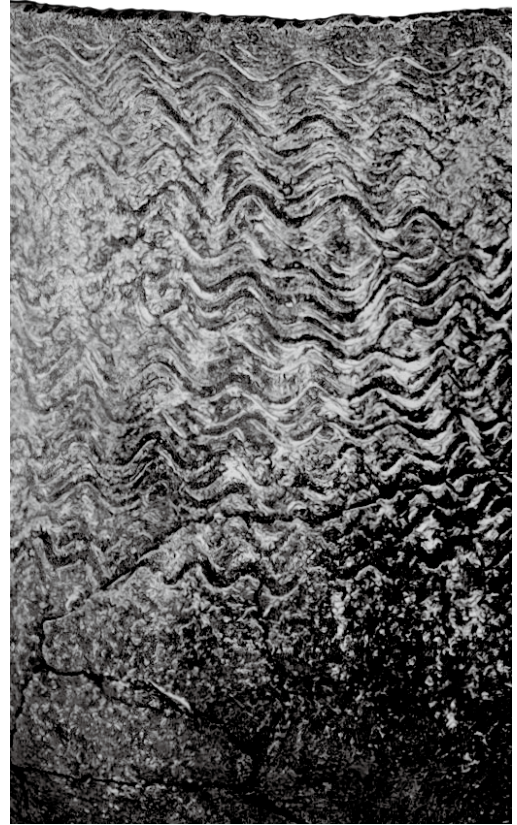


12. 床付面の靱痕（楕円内）

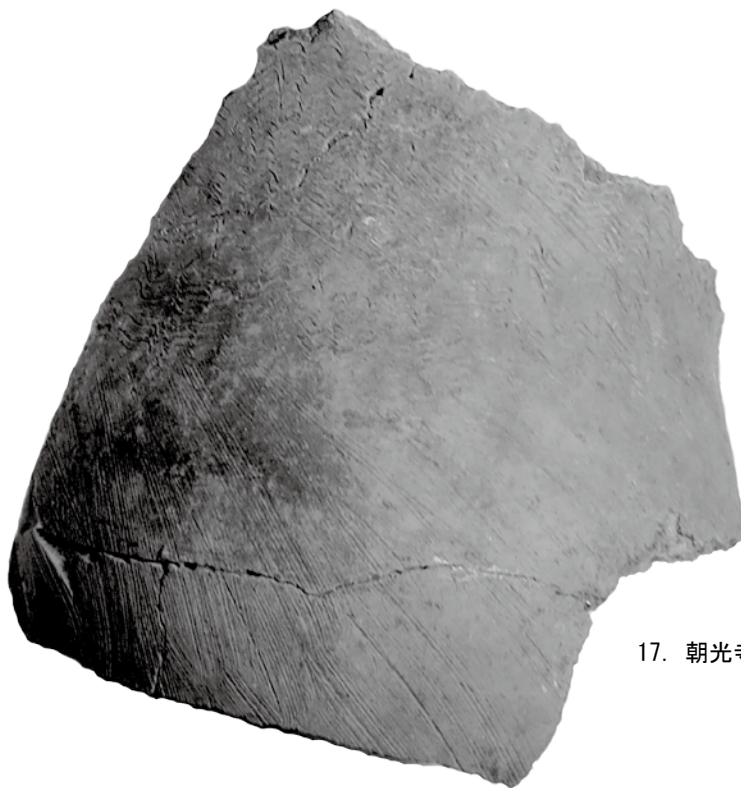
写真 6 朝光寺原遺跡 510 号住居址出土土器 9・11・12



20. 朝光寺原 107c-P5

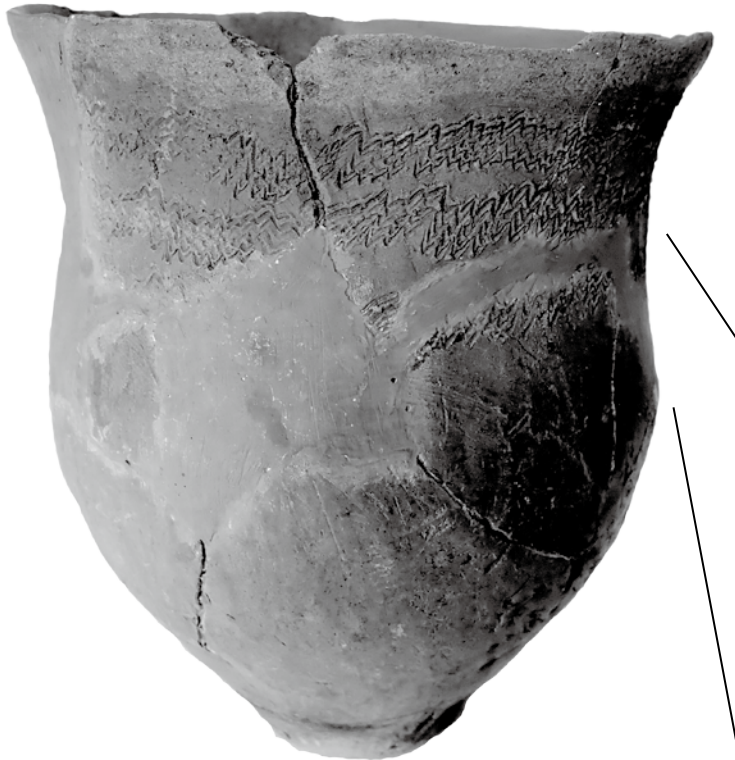


20. 口頸部波状文施文状況



17. 朝光寺原 515b- フ (一部)

写真 7 朝光寺原遺跡 107c・515b 号住居址出土土器 20・17



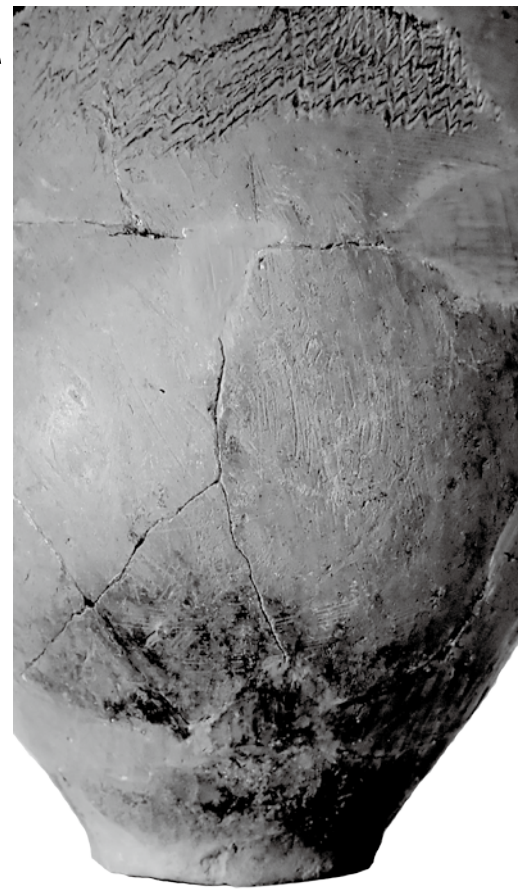
21. 朝光寺原 C- 不明遺構出土土器



口頸部波状文の施文状況



器壁内面の器面調整状況



頸～底部外面の器面調整状況

写真 8 朝光寺原遺跡 C 区不明遺構出土土器 21



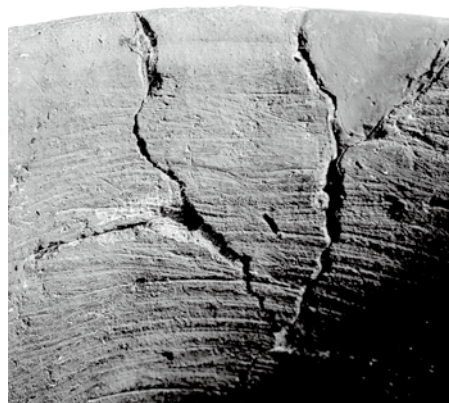
24. 朝光寺原 511c (口頸部外面)



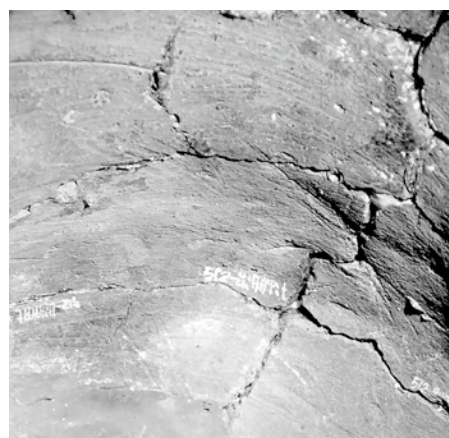
24 口頸部内面の器面調整状況



23. 朝光寺原 512- 出口 P



口頸部器壁
内面調整痕



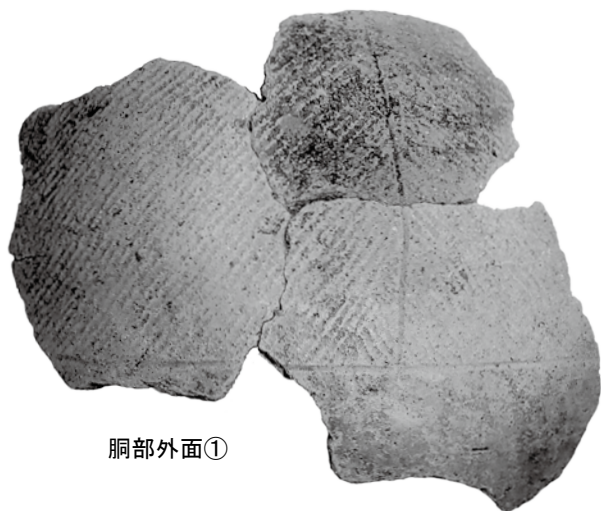
23 胴部器壁
内面調整痕



28. 朝光寺原 515-フ (口頸部外面)



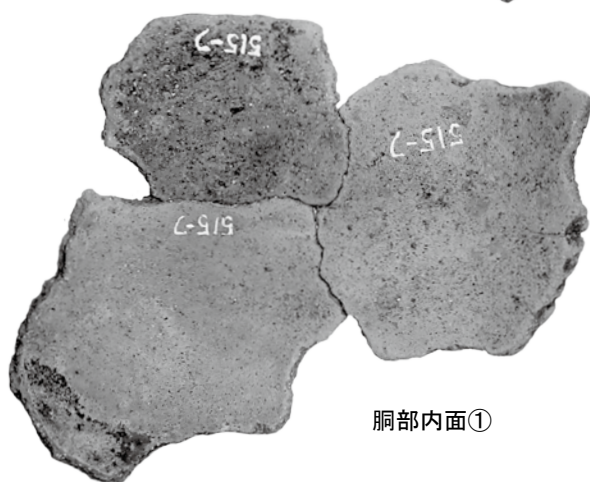
28 口頸部内面の器面調整状況



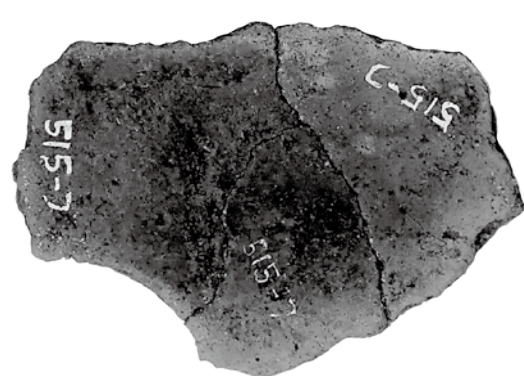
胴部外面①



胴部外面②

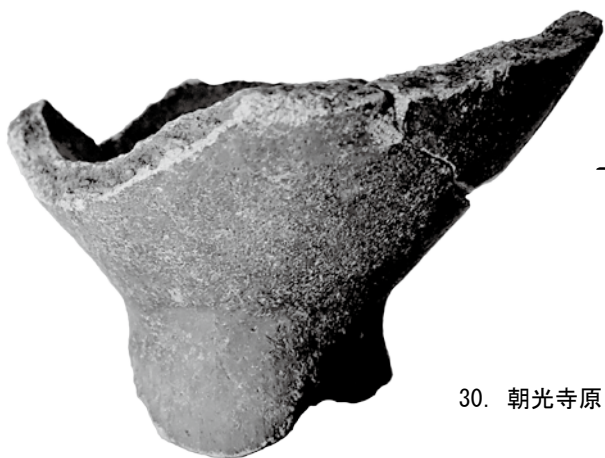


胴部内面①



胴部内面②

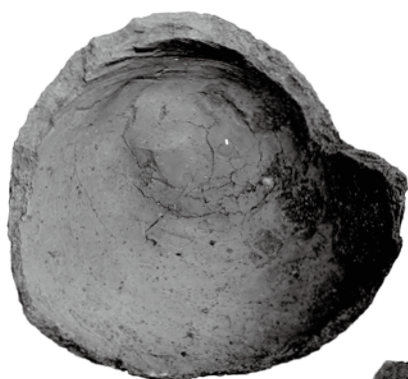
写真 10 朝光寺原遺跡 515 号住居址出土土器 27



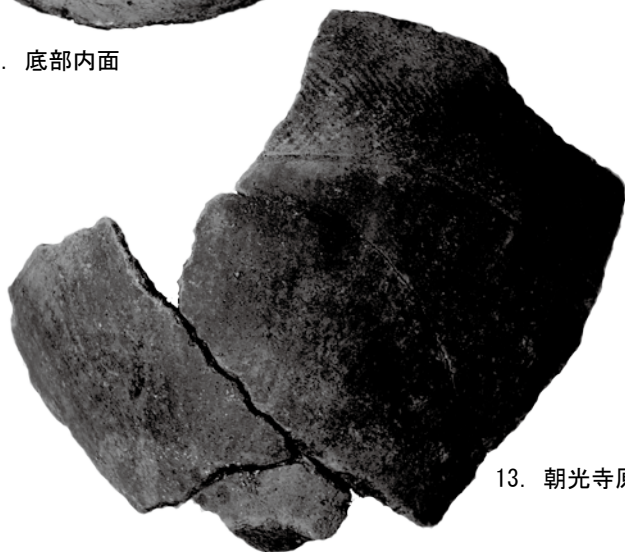
30. 朝光寺原 515- フ (高坏) 赤彩



31. 朝光寺原 515- フ (小型壺) 赤彩



31. 底部内面



13. 朝光寺原 510+514a ヌ (高坏) 赤彩



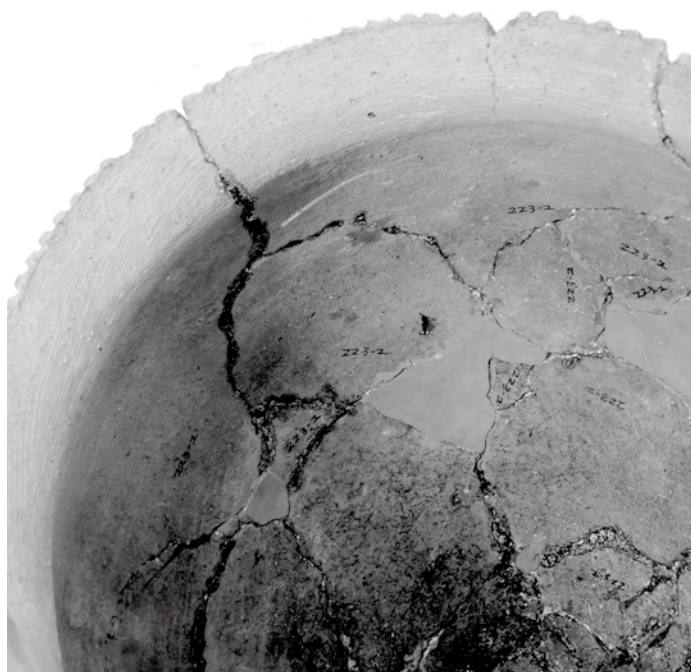
29. 朝光寺原 221 (赤彩)

写真 11 朝光寺原遺跡 510・514・515・515a・221 号住居址出土土器 13・29・30・31

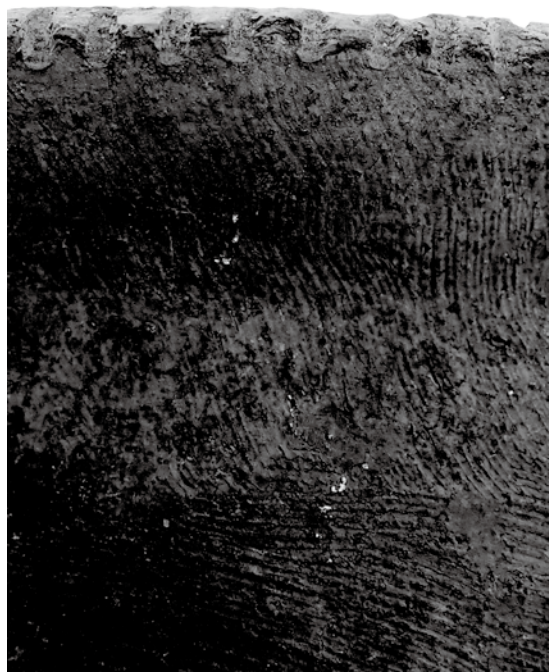


49. 三殿台 223- ヌ

刻目文に見えるハケ目痕



49. 内面の器面調整状況



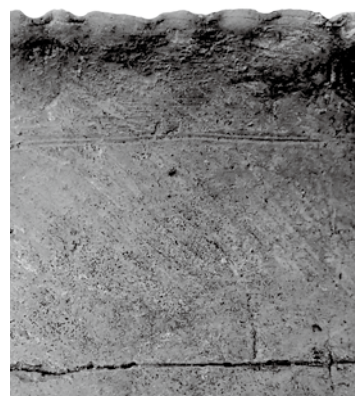
49. 外面のハケ目調整痕

写真 12 三殿台遺跡 223 号住居址出土土器 49

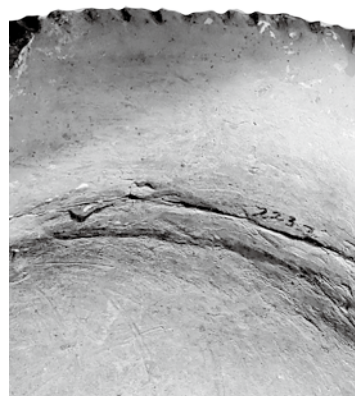
51. 三殿台 223- ヌ



外面



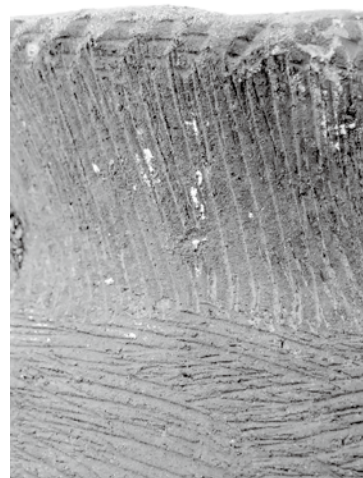
内面



53. 三殿台 223- ヌ



外面



口縁部内面

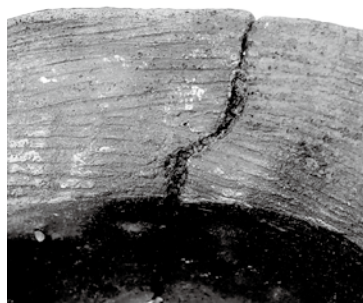
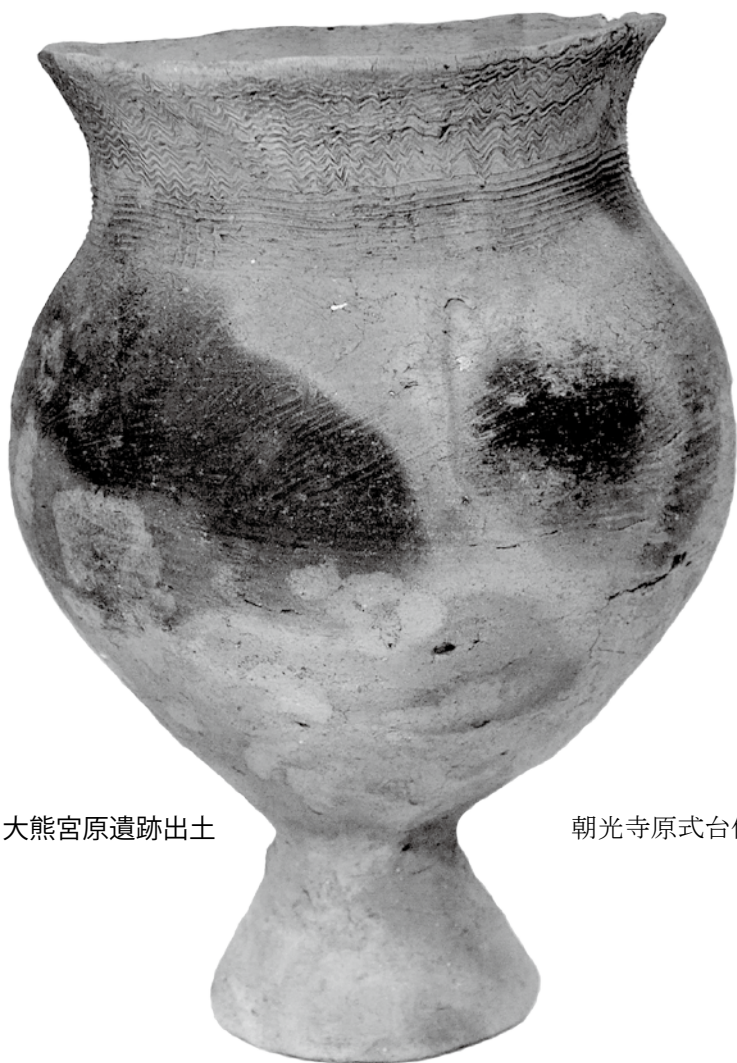
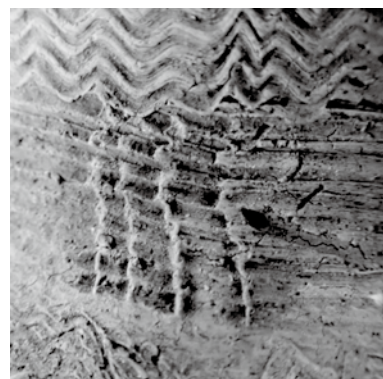


写真 13 三殿台遺跡 223 号住居址出土土器 51・53

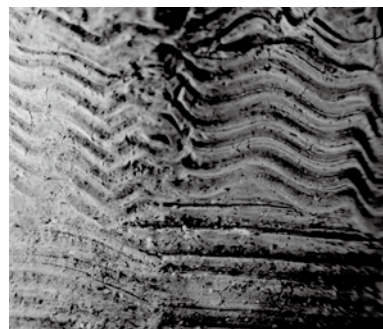


大熊宮原遺跡出土

朝光寺原式台付甕



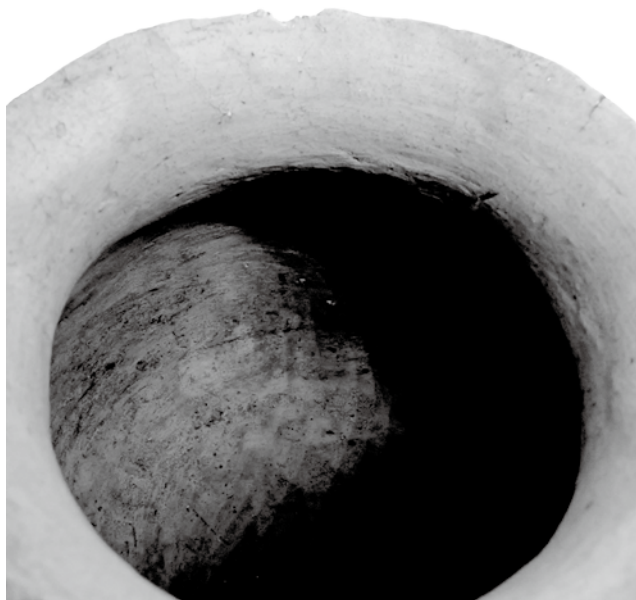
簾状文の4段止め



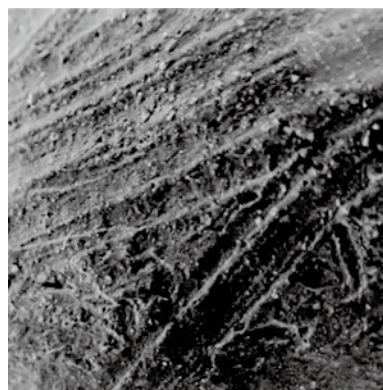
波状文の重なり状況



簾状文下の波状文



内面の器面調整状況



胴部外面のハケ目痕

写真 14 大熊宮原遺跡出土朝光寺原式台付甕（坂本・宮田 2021 原図に加筆修正）

【註】

- (1) 石川日出志は、関東地方弥生中期中葉の社会変動について、土器や集落形態、墓制、石器組成などから論じる中で、埼玉県池上・小敷田遺跡において、北陸に分布する小松式系土器が存在することに着目している。この遠隔地系土器の経路として、「長野県の千曲川沿いの経路を考えないと当地域での出現は理解できないが、千曲川沿いでは現在まで対比できる資料は検出されていない。(中略) 異様である。」と述べ、川沿いのルートではない別ルートを示唆している(石川 2001)。
- (2) 杉原荘介は 1939 年、「樽式土器」の設定を行うとともに、樽式土器は上野を主体としながらも分布圏の末流は、「関東の西部山岳或いは丘陵地帯を廻って相模に入っている」と、そのルートについても推察している(杉原 1939b)。

【参考文献・引用文献】

- 相川 薫・北村尚子 1997『長尾台北遺跡発掘調査報告書』長尾台北遺跡発掘調査団
- 赤塚次郎 1992「第3節 山中式土器について」『山中遺跡』愛知県埋蔵文化財センター
- 赤塚次郎 1993「山中式というデザイン」『考古学フォーラム』3, 考古学フォーラム
- 赤星直忠・岡本 勇 1979『神奈川県史』資料編 20 考古資料, 神奈川県
- 甘粕 健ほか 1982「第2編 市ヶ尾古墳群の発掘」『横浜市史 資料編 21』横浜市
- 安藤広道 1992「三殿台遺跡の再検討－弥生時代中期の遺構群を対象として－」『調査研究集録』第9冊, (公財)横浜市ふるさと歴史財団
- 安藤広道 1996「南関東地方(中期後半・後期)」『YAY! (やいっ!) 弥生土器を語る会 20 回到達記念 論文集』弥生土器を語る会
- 安藤広道 2009「東京湾西岸～相模川流域の後期弥生式土器の検討」『南関東の弥生土器 2～後期土器を考える～』関東弥生時代研究会・埼玉弥生土器観会・八千代栗谷遺跡研究会編, 六一書房
- 安藤広道 2014「「水田中心史観批判」の功罪」『国立歴史民俗博物館研究報告』185, 国立歴史民俗博物館
- 安藤広道 2015「【コラム 1】久ヶ原・弥生町期の未来?」『考古学リーダー 24 列島東部における弥生後期の変革～久ヶ原・弥生町期の現在と未来～』西相模考古学研究会・西川修一・古屋紀之編, 六一書房
- 安藤広道 2019「第4章分析・考察 1. 日吉台遺跡群出土の弥生土器について」『日吉台遺跡群発掘調査報告書 2006 年度～2014 年度の調査成果』慶応大学文学部民族学考古学研究室
- 飯島克己・若狭 徹 1988「樽式土器編年の再構成」『信濃』40-9, 信濃史学会
- 石井 寛 1979「横浜市清水ヶ丘遺跡(仮称)の調査」『第3回 神奈川県遺跡調査・研究発表会発表要旨』第3回 神奈川県遺跡調査・研究発表会準備委員会
- 石川日出志 2001「関東地方弥生時代中期中葉の社会変動」『駿台史學』第113号, 駿台史学会
- 伊丹 徹・池田 治 2000「神奈川県における弥生後期の土器編年」『第9回 東日本埋蔵文化財研究会 東日本弥生時代後期の土器編年(第1分冊)』東日本埋蔵文化財研究会福島大会実行委員会・福島県立博物館
- 伊藤秀吉・大坪宜雄・北村尚子ほか 1997『川崎市多摩区 長尾台北遺跡発掘調査報告書』長尾台北遺跡発掘調査団

- 稲垣自由 2015「甲府盆地における土器の地域性」『考古学リーダー 24 列島東部における弥生後期の変革～久ヶ原・弥生町期の現在と未来～』西相模考古学研究会・西川修一・古屋紀之編, 六一書房
- 井上義安 1988『水戸市大鋸町遺跡(仮称)元吉田第三住宅団地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』大鋸町遺跡発掘調査会
- 入澤雪絵・加部二生 2000「群馬県地域における弥生時代後期の概要」『第9回 東日本埋蔵文化財研究会 東日本弥生時代後期の土器編年〔第1分冊〕』東日本埋蔵文化財研究会福島大会実行委員会・福島県立博物館
- 大塚 実 1986「吉ヶ谷式及び岩鼻式土器の背景」『土曜考古』11, 土曜考古学研究会
- 大西雅也 2000「東京都における弥生時代後期の土器編年」『第9回 東日本埋蔵文化財研究会 東日本弥生時代後期の土器編年〔第2分冊〕』東日本埋蔵文化財研究会福島大会実行委員会・福島県立博物館大場第二地区遺跡群発掘調査団 1993『大場第二地区遺跡発掘調査概報Ⅲ』
- 岡田威夫・松本 完 1981『横浜市高速2号線埋蔵文化財発掘調査報告書(No.6 遺跡-I)』横浜市高速2号線埋蔵文化財発掘調査団
- 岡田威夫・松本 完 1984『横浜市高速2号線埋蔵文化財発掘調査報告書(No.6 遺跡-IV)』横浜市高速2号線埋蔵文化財発掘調査団
- 岡本 勇 1958「第二章第三節 農耕の発展と社会の変化」『横浜市史』1, P87
- 岡本 勇 1968「Ⅲ 発見された遺物 2 弥生時代のもの」『昭和42年度 横浜市域北部埋蔵文化財調査報告書』横浜市域北部埋蔵文化財調査委員会
- 岡本 勇・武井則道 1969「朝光寺原式土器について」『昭和43年度 横浜市埋蔵文化財調査報告書』横浜市埋蔵文化財調査委員会
- 岡本 勇 1986「第3章 水稻耕作の開始と発展」『神奈川県史 通史編1』神奈川県
- 岡本 勇 1996「第4章 第1節 時代概説」『綾瀬市史 9』別編考古, 綾瀬市
- 岡本 勇 1998「第7節 前期古墳成立の基盤」『縄文と弥生 日本文化の土台にあるもの』未来社
- 岡本孝之 1979「久ヶ原・弥生町期文化の諸問題(1)」『異貌』8, 共同体研究会
- 岡本孝之ほか 1980『新羽大竹遺跡 県立新羽高等学校建設にともなう調査』神奈川県埋蔵文化財調査報告17, 神奈川県教育委員会
- 及川良彦 2021「多摩地域の弥生時代」『多摩地域史研究会第29回大会「邪馬台国」時代の多摩-3世紀の多摩で何が起こっていたか-〈発表要旨〉』多摩地域史研究会
- 柿沼幹夫 1982「吉ヶ谷式土器について」『土曜考古』5, 土曜考古学研究会
- 柿沼幹夫・宮島秀夫 1982「岩鼻式から吉ヶ谷式土器へ その2 東松山市八幡遺跡6次2号住居址出土土器をもとに」『埼玉考古』45, 埼玉考古学会
- 柿沼幹夫 2006「岩鼻式土器について」『土曜考古』30, 土曜考古学研究会
- 柿沼幹夫・佐藤幸恵・宮島秀夫 2008「岩鼻式土器から吉ヶ谷式土器へ」『国士舘考古学』4, 国士舘大学考古学会
- 柿沼幹夫 2016「頸胴部帯縄文甕-交差編年・地域間交流の鍵-」『埼玉考古』51, 埼玉考古学会
- 鹿島保宏 1987『寺谷戸遺跡発掘調査報告書』横浜市埋蔵文化財調査委員会
- 栗島義明 2021「移動生活と塩分補給～広域移動を支えた塩化物泉の存在～」『利根川』43, 利根川同人
- 金子彰男 2000「埼玉県における弥生後期の土器編年について」『第9回 東日本埋蔵文化財研究会 東日

- 本弥生時代後期の土器編年〔第1分冊〕東日本埋蔵文化財研究会福島大会実行委員会・福島県立博物館
- 神之木台遺跡調査グループ 1977「神之木台遺跡における弥生時代の遺構と遺物」『調査研究集録』港北ニュータウン埋蔵文化財調査団
- 柄谷行人 2014『遊動論 柳田国男と山人』文春新書 953, (株)文藝春秋
- 喜多見陣屋遺跡調査会調査団 1989『喜多見陣屋遺跡Ⅰ』世田谷区教育委員会, 喜多見陣屋遺跡調査会
- 喜多見陣屋遺跡調査会調査団 1996『喜多見陣屋遺跡Ⅲ』世田谷区教育委員会, 喜多見陣屋遺跡調査会
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986『三後沢遺跡 十二原Ⅱ遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1989『師遺跡・鎌倉遺跡－沼田チェーンベース地点Ⅰ－』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 恋河内昭彦 1987『真鏡寺後遺跡Ⅰ』児玉町教育委員会 恋河内昭彦 1991『真鏡寺後遺跡Ⅲ』児玉町教育委員会
- 小池雅典 1994『町田小沢Ⅱ遺跡 産業廃棄物最終処分場建設工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告』沼田市教育委員会
- 小滝 勉・岩田明広ほか 1992『神崎遺跡発掘調査報告書』綾瀬市埋蔵文化財調査報告 2, 綾瀬市教育委員会・綾瀬市史調査会・神崎遺跡発掘調査団
- 小滝 勉 1996「第4章 第2節 3 比留川流域の弥生時代遺跡」『綾瀬市史 9』別編考古, 綾瀬市
- 小宮恒雄ほか 2003『四枚畑遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 32, 横浜市教育委員会
- 小山岳夫 2000「長野県の後期弥生土器－箱清水式土器分布圏の地域相を中心として－」『第9回 東日本埋蔵文化財研究会 東日本弥生時代後期の土器編年〔第1分冊〕東日本埋蔵文化財研究会福島大会実行委員会・福島県立博物館
- 近藤真佐夫 1990『虚空蔵山遺跡』日本窯業史研究所報告 35, 日本窯業史研究所
- 榊原松司 1977「横浜市殿ヶ谷遺跡の調査」『第1回 神奈川県遺跡調査・研究発表会発表要旨』第1回 神奈川県遺跡調査・研究発表会準備委員会
- 埼玉県 1982「霞ヶ関遺跡」『新編埼玉県史』埼玉県
- 坂本 彰 1986「稲荷前遺跡」『緑区史 資料編』2, 緑区史刊行委員会
- 坂本 彰 2000「横浜市寺中ノ原遺跡の朝光寺原式土器」『横浜市歴史博物館紀要』4, 横浜市歴史博物館
- 坂本 彰 2005『鶴見川流域の考古学』百水社
- 坂本 彰 2019「都筑区主要遺跡及び関連遺跡図」『図説 都筑の歴史』都筑区ふるさとづくり委員会
- 坂本 彰 2021「(研究ノート) 横浜考古学史1・高津眞亮」『横浜市歴史博物館紀要』25, 横浜市歴史博物館
- 坂本 彰・宮田 毅 2021「幻の朝光寺原式土器基準資料－櫛描波状文のある弥生台付甕－」『利根川』43, 利根川同人
- 佐藤明人 1988「樽式土器の様式推移と地域色」『群馬の考古学 創立十周年記念論集』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 静岡県教育委員会 1968『東名高速道路(静岡県内工事)関係埋蔵文化財発掘調査報告書(沼津市北神土手遺跡発掘調査概報)』静岡県教育委員会
- (財)静岡県埋蔵文化財調査研究所 1992『瀬名遺跡Ⅰ(遺構編Ⅰ)本文編・図版編』(財)静岡県埋蔵文化財調査

研究所

- (財)静岡県埋蔵文化財調査研究所 1992『瀬名遺跡Ⅲ（遺物編Ⅰ）本文編・図版編』(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所
- (財)静岡県埋蔵文化財調査研究所 1997『北神土手遺跡 他Ⅰ』(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所
- (財)静岡県埋蔵文化財調査研究所 1997『北神土手遺跡 他Ⅱ』(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所
- 末木 健ほか 1987『金の尾遺跡・無名墳（きつね塚）』山梨県教育委員会
- 杉原荘介 1939a「南関東を中心とする土師部祝部土器の諸問題」『考古学』10-4, 東京考古學會
- 杉原荘介 1939b「上野樽遺跡調査概報」『考古学』10-10, 東京考古學會
- 杉原荘介 1939c「北関東に於ける後期弥生式文化に就いて」『考古学』10-10, 東京考古學會
- 杉原荘介 1964・89「南関東」『弥生式土器集成 本編』東京堂
- 鈴木重信・古屋紀之 2011『大原遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 44, 横浜市教育委員会
- 鈴木重信 2017「「大型ピット1」・「大型ピット2」の再検討」『横浜に稲作がやってきた』横浜市歴史博物館
- 鈴木孝之・石塚和則・山本 靖ほか 1991『代正寺・大西遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 110, 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 武井則道 1986「朝光寺原式とその分布圏」『古代のよこはま』横浜市埋蔵文化財調査委員会
- 武井則道 2001『E5 遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 27, 横浜市教育委員会
- 武部喜充ほか 2004『矢崎山西遺跡発掘調査報告書』（有）山武考古学研究所
- 高田 博ほか 1977『佐倉市江原台遺跡発掘調査報告書Ⅰ－第1次・2次調査－』（財）千葉県埋蔵文化財センター
- 高田 博ほか 1977『佐倉市江原台遺跡発掘調査報告書Ⅱ』（財）千葉県埋蔵文化財センター
- 高花宏行 2000「千葉県における弥生後期の土器編年」『第9回 東日本埋蔵文化財研究会 東日本弥生時代後期の土器編年〔第2分冊〕』東日本埋蔵文化財研究会福島大会実行委員会・福島県立博物館
- 立花 実 2011「神奈川西部における弥生時代後期の土器様相と中部高地型櫛描文土器」『山梨県考古学協会 2010 年度研究集会「中部高地南部における櫛描文系土器の拡散」資料集』山梨県考古学協会
- 田中義昭ほか 1967「横浜市長谷・鹿ヶ谷両遺跡の発掘調査について」『東横女子短期大学紀要』5
- 田中義昭 1982「南関東における初期農耕集落の展開過程」『島根大学法文学部紀要文学科編』5-1, 島根大学法文学部
- 田中義昭 2011『弥生時代集落址の研究』新泉社
- 田村言行ほか 1979『江原台』江原台第1遺跡発掘調査団
- 田村晃一 1982「弥生土器」『横浜市史』資料編 21, 横浜市
- 田村良照ほか 1997『横浜市観福寺北遺跡群開闢地遺跡発掘調査報告書』観福寺北遺跡発掘調査団
- 田村良照 1998「朝光寺原式の属性（前編）－観福寺遺跡群の検討から－」『神奈川考古』49, 神奈川考古同人会
- 田村良照 2013「朝光寺原式の属性（後編）」『神奈川考古』49, 神奈川考古同人会
- 中央大学考古学研究会 1971『上谷本第二遺跡 A 地区・B 地区発掘調査概報』上谷本第二遺跡発掘調査団
- 中央大学考古学研究会 1973『小黒谷遺跡発掘調査概報』小黒谷遺跡発掘調査団
- 塚田明治 1977『東京電力荏田送電所敷地内埋蔵文化財発掘調査概報』荏田送電所敷地内埋蔵文化財発掘調査団

査団

- 富田和夫・中村倉司 1986「埼玉県における中期後半の櫛描文土器について」『第7回 三県シンポジウム 東日本における中期後半の弥生土器』北武蔵古代文化研究会・千曲川水系古代文化研究所・群馬県考古学談話会
- 永井正憲ほか 1984『手広八反目遺跡発掘調査報告書』手広遺跡発掘調査団
- 中嶋由紀子 2015「相模湾岸の土器様相について ―平塚市真田・北金目遺跡群からみた土器様相―」『考古学リーダー 24 列島東部における弥生後期の変革 ～久ヶ原・弥生町期の現在と未来～』西相模考古学研究会・西川修一・古屋紀之編, 六一書房
- 中村嘉男ほか 1969「朝光寺原遺跡C地区調査略概報」『昭和43年度 横浜市埋蔵文化財調査報告書』横浜市埋蔵文化財調査委員会
- 沼田市教育委員会 1990『奈良地区遺跡群 奈良田向遺跡群』沼田市教育委員会
- 沼田市教育委員会 1993『上久屋地区遺跡群 下清水遺跡・馬場遺跡・橋場遺跡・十二反田遺跡』沼田市教育委員会
- 沼田市教育委員会 1993『戸神諏訪Ⅲ遺跡』沼田市教育委員会
- 沼田市教育委員会 1994『沼田市西部地区遺跡群Ⅲ』沼田市教育委員会
- 沼田市教育委員会 2003『日影平遺跡』沼田市教育委員会
- 子ノ神遺跡発掘調査団 1978『子ノ神遺跡』厚木市教育委員会
- 子ノ神遺跡発掘調査団 1983『子ノ神遺跡(Ⅱ)』厚木市教育委員会
- 子ノ神遺跡発掘調査団 1991『子ノ神遺跡(Ⅲ)』厚木市教育委員会
- 子ノ神遺跡発掘調査団 1998『子ノ神遺跡(Ⅳ)』厚木市教育委員会
- 橋本裕行 1986「弥生時代の遺構と遺物について」『奈良地区遺跡群Ⅰ 発掘調査報告書(第2分冊)』上巻, 奈良地区遺跡調査団
- 浜田晋介 1995「朝光寺原式土器の成立過程」『史叢』54・55 合併号, 日本大学史学会
- 浜田晋介 1998「朝光寺原式土器の成立をめぐる」『川崎市市民ミュージアム紀要』11, 川崎市市民ミュージアム
- 浜田晋介 2000「朝光寺原式土器・その存在の背景」『竹石健二先生・澤田大太郎両先生還暦記念論文集』竹石健二先生・澤田大太郎両先生の還暦を祝う会
- 浜田晋介・宮川和也 2003「吉ヶ谷式土器の拡散と変容―東京都・神奈川県内の集成―」『埼玉考古』38, 弥生時代特集, 埼玉考古学会
- 浜田晋介 2009a「朝光寺原式土器の編年と共伴土器」『南関東の弥生土器2 ～後期土器を考える～』関東弥生時代研究会・埼玉弥生土器観会・八千代栗谷遺跡研究会編, 六一書房
- 浜田晋介 2009b「南関東弥生後期土器雑感」『南関東の弥生土器2 ～後期土器を考える～』関東弥生時代研究会・埼玉弥生土器観会・八千代栗谷遺跡研究会編, 六一書房
- 浜田晋介 2015「コメント 朝光寺原式土器からみる集団構成論メモ」『考古学リーダー 24 列島東部における弥生後期の変革 ～久ヶ原・弥生町期の現在と未来～』西相模考古学研究会・西川修一・古屋紀之編, 六一書房
- 比田井克仁 1997「弥生時代後期における時間軸の検討 ―南武蔵地域の検討を通して―」『古代』103, 早稲田大学考古学会

- 比田井克仁 2010「弥生類型と古墳時代への移行社」『古代』123, 早稲田大学考古学会
- 平子順一・鹿島保宏 1989『観福寺北遺跡・新羽貝塚』横浜市埋蔵文化財調査委員会
- 平野進一 1988「弥生土器の終焉」『群馬の考古学 創立十周年記念論集』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 笛木亮三編・刊 1999『朝光寺原遺跡発掘調査概報集録』〈非売品〉
- 古屋紀之 2011「第2節 弥生時代後期＝終末期の遺構と遺物からみた大原遺跡」『港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 14 大原遺跡』横浜市教育委員会, 公益財団法人 横浜市ふるさと歴史財団
- 古屋紀之 2013「横浜市都筑区北川谷遺跡群における弥生時代後期～古墳時代前期の土器編年～」『横浜市歴史博物館紀要』第17号, 横浜市歴史博物館
- 古屋紀之 2014「第3章第2節 弥生時代終末期～古墳時代前期前半」『権田原遺跡Ⅲ 弥生時代後期～古墳時代前期編』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財発掘調査報告書 47, 公益財団法人 横浜市ふるさと歴史財団
- 古屋紀之 2015「南武蔵地域における弥生時代後期の小地域圏とその動態」『列島東部における弥生後期の変革～久ヶ原・弥生町期の現在と未来～』西相模考古学研究会・西川修一・古屋紀之編, 六一書房
- 古屋紀之・浅野由美子 2018「第2部 横浜市磯子区三殿台遺跡の再整理報告(1)－大型住居址(306C/306E)出土遺物の再整理－」『横浜市歴史博物館調査研究報告 横浜市内出土資料報告(弥生時代中期・宮ノ台式期)』14, (公財)横浜市ふるさと歴史財団 横浜市歴史博物館
- 古山 学 1968「12号地点」『昭和42年度横浜市域北部埋蔵文化財調査報告書(経過概報)』横浜市域北部埋蔵文化財調査委員会
- 松本 完 1981「(3)3号住居址」,「第3節 本遺跡出土の久ヶ原・弥生町の土器について」『横浜市道高速2号線埋蔵文化財発掘調査報告書 1980年度(Na.6遺跡-I)』横浜市道高速2号線埋蔵文化財発掘調査団
- 松本 完 1984「考察 弥生時代～古墳時代初頭の遺構と遺物について」『横浜市道高速2号線埋蔵文化財発掘調査報告書 Na.6遺跡-IV 1983年度』横浜市道高速2号線埋蔵文化財発掘調査団
- 松本 完 1993「南関東地方における後期弥生土器の編年と地域性」『飛翔古論聚－久保哲三先生追悼論文集』
- 松本 完 1997「久ヶ原式・弥生町式土器について」『弥生土器シンポジウム 南関東の弥生土器』弥生土器を語る会・埼玉弥生土器観会, 明治大学考古学博物館
- 松本 完 2003「後期弥生土器形成過程の一樣相」『埼玉考古』38, 弥生時代特集, 埼玉考古学会
- 水田 稔 2020『利根沼田地域 弥生時代遺跡総覧』水田 稔, 個人出版
- 水田 稔 1985『石墨遺跡－関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告－K.C.Ⅶ<本文編>・<図版編>』沼田市教育委員会・群馬県教育委員会・日本道路公団
- 水野順敏 1981『富士塚地区遺跡群発掘調査報告書』富士塚地区遺跡群発掘調査団
- 三宅敦気・相京建史 1982「樽式土器の分類」『弥生終末期の土器』第3回三県シンポジウム群馬県史料
- 宮下昌文 1992『沼田西部地区遺跡群Ⅱ 赤坂遺跡 背戸田遺跡 昭和63年度・平成元年度 県営は場整備事業沼田西部地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』沼田市教育委員会
- 宮田 毅 2016「十王台式土器の記憶－茨城県東海村雑兵遺跡・石橋向遺跡群を中心に－」『利根川』38, 利根川同人
- 宮田 毅 2020「久慈川河口右岸における弥生時代終末期土器の様相－東海村石橋向A遺跡出土土器群を

中心として－」『利根川』42, 利根川同人

森原明廣ほか 1991『金の尾遺跡 第Ⅱ次発掘調査報告書』敷島町教育委員会

柳田國男 1963「山人考」ほか『定本 柳田國男集』第4巻, 筑摩書房

柳田國男 1969「婚姻の話」『定本 柳田國男集』第15巻, 筑摩書房

柳田國男・大塚英志編 2013『柳田國男 山人論集成』角川ソフィア文庫 17838, (株) 角川学芸出版

柳田敏司・昼間孝次 1974「川越市霞ヶ関遺跡第3次発掘調査概要」『第7回 遺跡発掘調査発表会 発表要旨』埼玉考古学会

山内清男 1939「弥生土器」『日本先史土器図譜 図版 解説』Ⅰ, 先史考古学会, 1972年再版・合冊本による

山内清男 1940「弥生土器」『日本先史土器図譜 図版 解説』Ⅴ, 先史考古学会, 1972年再版・合冊本による

山下孝司ほか 1987『中本田遺跡・堂の前遺跡』葦崎市教育委員会

山下誠一 2000「長野県の弥生土器－伊那谷における弥生時代後期の土器編年－」『第9回 東日本埋蔵文化財研究会 東日本弥生時代後期の土器編年〔第1分冊〕』東日本埋蔵文化財研究会福島大会実行委員会・福島県立博物館

吉田浩明・中山 豊 2009『川崎市高津区 末長遺跡第2地点発掘調査報告書』玉川文化研究所

和島誠一ほか 1962『横浜市三殿台遺跡発掘経過概報』横浜市教育委員会

和島誠一 1964・68『三殿台－横浜市三殿台遺跡集落址発掘調査の記録一』三殿台遺跡発掘調査報告書刊行会

渡辺 務 1983「大場・富士塚遺跡」『日本窯業史研究所年報Ⅱ』日本窯業史研究所

渡辺 務 1989『釈迦堂遺跡』日本窯業史研究所報告第25冊, 日本窯業史研究所

渡辺 務 1994『赤田地区遺跡群』集落編Ⅰ・Ⅱ, 日本窯業史研究所報告第45冊, 日本窯業史研究所

渡辺 務 1995「朝光寺原様式の基礎的研究」『王朝の考古学』大川 清博士古稀記念会編, 雄山閣

渡辺 務 1997a「付編 長尾台北遺跡出土の朝光寺原式土器について－14号住居址出土遺物が提起する朝光寺原式出現期の問題をめぐって－」『川崎市多摩区 長尾台北遺跡発掘調査報告書』長尾台北遺跡発掘調査団

渡辺 務 1997b「朝光寺原式土器について」『弥生土器シンポジウム 南関東の弥生土器』弥生土器を語る会・埼玉弥生土器観会, 明治大学考古学博物館

渡辺 務 1998『赤田地区遺跡群 集落編Ⅱ』日本窯業史研究所報告第48冊, 日本窯業史研究所

渡辺 務 2001「その頃南武蔵の片隅で」『弥生後期のヒトの移動～相模湾から広がる世界～』西相模考古学研究会

渡辺 務 2003「弥生時代の遺構と遺物」『横浜市青葉区寺下遺跡』日本窯業史研究所報告 第60冊

追記

朝光寺原遺跡 A 区 109c 号住居址からは、他に朝光寺原式の甕・台付甕・東海系壺が出土しているが、資料未確認のため言及できなかった（笹木 1999, 渡辺 2001 を参照）。

坂本 彰〔元（公財）横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化センター調査研究員〕

宮田 毅〔元太田市教育委員会〕